

## 2 分析結果の要約

### 分析 1

#### 調査結果の概要及び教科の調査結果の分析

(1) 「基礎・基本」定着状況調査

〈タイプⅠ〉

- 小学校全教科及び中学校3教科（理科を除く）でおおむね定着している。

〈タイプⅡ〉

- 小学校全教科，中学校数学，理科において，知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力などに課題がある。

(2) 全国学力・学習状況調査

- 小学校は，全ての教科において，平均正答率が全国平均を上回っている。

- 中学校は，国語，数学は平均正答率が全国平均を上回っているが，理科については全国平均を下回っている。

### 分析 2

#### 質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連

(1) 「課題発見・解決学習」に関すること

- 児童生徒質問紙調査の「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において肯定的に回答している児童生徒は，否定的に回答している児童生徒に比べて，全ての教科のタイプⅠとタイプⅡで，平均通過率が高い傾向が見られる。

- 「課題発見・解決学習」に関する全ての質問事項において，学校が，指導の工夫について「よく当てはまる」，「やや当てはまる」と肯定的に回答している割合よりも，児童生徒が肯定的に回答している割合は低い。

(2) 生活と学習に関すること

- 「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙調査の回答状況と教科調査の結果との関連のうち，各教科の平均通過率の差の合計が大きいもの上位5つのうち，小学校，中学校に共通している質問事項「分からないことはそのままにせず，分かるまで努力しています。」

「授業では，解決しようとする課題について，『たぶんこうではないか』，『こうすればできるのではないか』と予想しています。」等

(3) 理科の学習に関すること

- 観察や実験の意識に関する児童生徒質問紙調査の質問事項に肯定的に回答した児童生徒の方が，教科調査のタイプⅠとタイプⅡ（A問題，B問題）において，平均通過率（平均正答率）が高い傾向が見られる。等

(4) 外国人とのコミュニケーションに関すること

- 「外国人と積極的にコミュニケーションを図りたいです。」の質問事項に肯定的に回答した生徒の方が，英語の教科調査のタイプⅠとタイプⅡにおいて，平均通過率が高い傾向が見られる。等

(5) 教科調査の結果と児童生徒質問紙調査の回答状況との関連

- 全ての教科で10ポイント以上の差があった質問事項

「基礎・基本」定着状況調査

「授業では，自分の考えとその理由を明らかにして，相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。」

全国学力・学習状況調査

「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」等

### 分析 3

#### 通過率 30%未満の児童生徒の状況

(1) 通過率 30%未満の児童生徒の教科調査における状況

- タイプⅠの通過率 30%未満の児童生徒の平均通過率と県の平均通過率との差が最も大きかった設問

小学校 国語 三 3③ 漢字の読み（ゆげ） 小学校 算数 ①（4）3位数÷2位数 644÷23

小学校 理科 ⑤（5）空気の体積の変化と生活との関連

中学校 国語 五 3 要旨の把握 中学校 数学 ①（5）式の値

中学校 理科 ①（2）気体の捕集方法 中学校 英語 ⑩ 1 つながりのある英文を書く

(2) 通過率 30%未満の児童生徒質問紙調査における回答状況

- タイプⅠの通過率 30%未満の児童生徒の肯定的な回答の割合と通過率 60%以上の児童生徒の肯定的な回答の割合との差が最も大きかった質問事項（小・中学校共通）

「分からないことはそのままにせず，分かるまで努力しています。」

「学校や社会のルールを守っています。」

「ふだんの生活や学習の中で，これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。」

「算数（数学）の授業はよく分かります。」

「理科の授業では，観察や実験の結果から，どのようなことが分かったか考えています。」

### 分析 4

#### 平成 26 年度「基礎・基本」定着状況調査の結果と平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果との関係～学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組～

- 「広島県教育資料」を活用した研修を行った。

- ことばの教育について，計画的に研修を行った。

- 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し，学校全体で成果や課題を共有した。

- 調査対象学年の生徒に対して，前年度に，理科の授業において，コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行った。等

### 分析 5

#### 学力向上総合対策事業研究指定校の状況

- 指定校の平均通過率は，平成 23 年度の小中連携地域の小学校で国語が県平均を上回っていたが，平成 27 年度は全ての教科で県平均を上回っている。

- 通過率 30%未満の児童生徒の割合は，小中連携地域（小学校・中学校）及び中中連携地域の全ての教科で減少している。